

第3回釧路都心部まちづくり推進協議会（準備会） 議事要旨

■日時：平成31年3月19日（火）14:00～

■場所：釧路市役所 防災庁舎5階 災害対策本部室

■出席者：末頁参照

■議 事

- （1）第2回協議会（準備会）の主な意見と対応方針、議事概要
- （2）パブリックコメント（意見募集）の結果概要
- （3）釧路都心部まちづくり計画【基本構想編】（案）
- （4）第3回協議会（準備会）の論点ペーパー
- （5）民間プレーヤーとの意見交換会開催概要
- （6）その他

■議事要旨

○第3回協議会（準備会）の論点ペーパーについて

高見委員（有識者）

- 旭川駅の多目的広場について。駅前広場内の自動車施設の配置の計画としては、タクシーを駅前広場に並べるのは現在主流ではないが、旭川駅の場合は大きな開発だったのでそれができたうえに、メインの西コンコースから買物公園のあたりに巨大な広場ができた。ここでアイススケートをしたり、雪のない季節はイベントなどで利活用している。
- 駅前に全く車に遮られずに行ける歩行者空間と、その横に大型のショッピングセンターが立地した。この状態は新しい駅前をつくっている。釧路駅でもシンボルともいえるような空間があるといいと思う。
- 駅舎の内部については、冬場は暖房が入っていて天気が悪い時などはすごくよい。停電の時は市民の方が避難してきて受け入れたと聞いており、高架下に室内の半公共的な空間があるとすごくいいと思う。公共空間をどうやって確保していくかという議論もあるかと思う。
- 北口駅前広場の自動車の部分は基本的にバスとタクシーが多く、自家用車が使いつらいかたちになっているが、南側に偶然小さい車まわしができた。これが自家用車にとっては近くまで寄れるのですごく便利。こういう機能もいると思う。
- 駅前に歩行者系の立派な空間、高架下に室内空間としての公共空間、自家用車寄せも便利なので確保してある。このあたりを参考にしていただけるとよいかと思う。
- 民間プレーヤーとの連携については、今の時代にこのようなまちなかの公共事業としては、市民との関係性をつくりながら進めていくという事がすごく大事。それが先行したのでこういう意見になるが、一方で行政側が準備する機能の議論もさけて通れない。市民の方をお願いしている活動は当然必要だと思うが、推進主体である行政側が自ら行なう機能も含め、その議論も次年度にある程度、やっていかななくてはいいかと思う。
- パブリックコメントを拝見すると、旭川駅みたいと書いていただいているのもあったが、あのショッピングモールが入ったのは、新中活法で郊外規制がかかると見込んだイオングループがまちなかに展開する、そこに駅前に巨大な土地があるとの事で目をつけたと思っている。こういった

民間の大物とかも含めて、何か公共側で働きかけたり、考えたりする事を始めたり、議論しなくてはいけないと思う。

松井委員（有識者）

- 駅周辺のプロジェクトを考えた時、コアになる商業施設が必須だと思うが、一方で行政が自ら主体的に動けるような施設もあると思う。例えば、市役所・図書館・教育施設・医療施設・障害学習センターなどいろいろある。その中でも高度な図書館は非常に集客能力があり、たくさんの人たちが訪れる機能として重要だと思う。最近いろいろなところでやっているようなPFI。公共が用意して運営を民間にやってもらう、そこに物販などの商業施設を併設する。行政が中心となってコアな部分をつくれるような事も候補に挙げておくべきだと思う。
- その際、釧路が得意とする機能も集約する。夏に避暑に来られる方が多いと聞いた事があるが、そういう方がビジネスを短期間で展開できるようなサテライトオフィスなど、釧路への企業誘致や、いろいろなオフィスを展開できるような可能性を考えられないかと思う。

岡本部長

- 釧路市は平成23年度から、公有資産マネジメントという取り組みを行ってきている。30年代40年代の建物が老朽化していく中で条例に列記されている施設であるので、いずれは個々に改築をしなくてはならないという事になる。
- 公有資産マネジメントの複合化という取り組みの部分で、昨年の秋にオープンした地区会館が2館と児童館施設。これは児童センターという機能をアップした部分を複合化したもの。地区会館は高齢者、児童センターは放課後に子どもたちが利用する。それを複合化することによって、同じロビーの中で一緒に過ごせる環境をつくる。
- 従前の児童館施設は日曜が休館。日曜の施設はクローズされているので、そこを地区会館が借りて施設の有効をはかる。このような取り組みを釧路市の町内会単位での提案事業として行っている。
- スタートしてまだ1年たたないが、コストの部分でいくと従前の施設よりはある種の建物になっている。地区会館自体が避難機能も備えているので、地域の防災の観点も含めた拠点であると同時に、コミュニティの形成の場となっている。
- 駅周辺の都心部での有効活用も議会の中ででた議論。都心部まちづくり計画が事業構想という事に入っていく中で公共施設の議論も着眼されていくかと思う。
- 夏場の避暑目的で高齢の方が多く利用している中で、一部コアーキングスペースを求めてくる若い方がいる。いわゆる自営業や創作活動をされているノマドワーカーと言われている方たち。割合は少ないが都心エリアにオフィスをかりて、実際に季節的な仕事のオフィスワーキングをしている。国も推奨はしてきて、テレワークというかたちとも結びついてくると思うが、我々は過去にテレワークの実証実験も行なっている。大手電機メーカーの方に世界と通信環境を持ちながら仕事をやっていただいた。釧路地域に高速回線の通信環境とクライアントサーバーの機密性保持の環境が整っていれば、何も問題なく過ごせる。その時はご家族で一緒に来られて、通常だと夏休みがそれほど長くはとれないが、仕事もしながら長く過ごせて好評をはくした。働き方改革と言われている中で、この涼しい釧路に仕事と余暇の結節の可能性の一端があると期待をしている。
- 平成31年度には若い方々にここで就労していただくように、お試しワーキングホリデーという事業をやった。地域のIT関係の方々に雇用関係を結んでもらい、環境がよければ定住してもらう。

気候条件＋雇用条件を組み合わせた若年者を引き込む政策というもの。

高野座長（有識者）

- 釧路で忘れてはいけないのは津波、地震災害。先ほど高見先生の話の中で、旭川の駅空間が公共空間としての避難場所となり重要性があるという事で、釧路駅も津波に対してポイントとなる場所だと思う。避難という機能も一要因として、この場所の使い方を考えなくてはならない。
- 最初の説明された部分のパブリックコメントの一番最初の意見。ＪＲ釧路駅と道の駅を併設して、ＪＲと車やバスで乗り入れできる用地を確保してほしいと書いてある。都市の中心部に道の駅の発想はないかもしれない。従来の道の駅とはだいぶコンセプトと異なったものに成らざるを得ないが、車の交通量も非常に多いので、うまく取り込むような新しい道の駅の形もあると思う。そういうものを考えていき、なおかつ商業、地元の生鮮食品をだしているような小規模の人たちも展開できるスペースをつくっていく。道の駅の賑わいのつくりかた、都会型の道の駅、そういう事も考えていくのはいいと思う。

吉田部長

- 釧路観光の特徴として、二次交通が都会に比べると脆弱だという特徴がある。降雪期を除く夏場を中心にレンタカーを活用した旅行がウエイトを占める。レンタカーを利用された方が次のアクセスの合間に居る場所がないというアンケートの意見をいただいている。そこは我々の課題でもある。
- 座長が言われたようにパブリックコメントに書かれていたような発想も我々は非常に興味ある。釧路市が観光としてやっていくうえで、我が釧路市にとっても重要な視点だと改めて考えさせられた。
- 昨年の9月6日におきた胆振東部地震の時、釧路もブラックアウトで全ての電気供給が止まり、ＪＲ釧路駅に100人を超える路頭に迷う旅行者が出た。我々観光スタッフがＪＲ釧路駅に行ったところ、その多くが外国の方だった。
- 釧路の特徴としては千歳に入って、ＪＲをつかって周遊してくるパターンが多い。今後もこういった傾向が続く事を考えると、災害時の避難施設としての機能をどのようにあらかじめ準備しておくのか、非常に大切な視点として痛感させられた。その時はこの防災庁舎の施設に臨時の避難施設を設けて、案内した事によって大きなトラブルにもならずに対応ができた。
- その後ＪＲさんともこの事を教訓に次なる対策を検討するように議論はしている。災害、避難施設としての機能の視点をもっていく必要がある。

高見委員（有識者）

- 交通ネットワークと自動車処理は交通計画協会に任せておけば安心だと思っているが、そちらを先にやってしまうと、どうしても自動車中心になってしまう。交通に対する条件がわかったので、次は歩行系をどうするかというのを先に考えていきたい。
- あとで松井委員に補足してもらいたいのが、大分の街に駅周辺事業で800mの凄まじい空間をつくった。釧路でそこまで大きな公共空間とは言わないが、歩行系を考えるうえでいい事例である。
- 土地利用の密度が低くなり、市民の方も議論していく中で、未利用地を活用する事も含め、駅の近くに特徴的な歩行者の空間を先にどうあったらいいかを考える。それから、それを受ける交通ネットワークというふうに考えていただくといいかと思う。
- 佐賀でやっている、西村浩さんは、歩行者は車と交錯したり駐車場の出入り口があったりするだけで、心理的な負担があつくつろがないと言っている。

- 自家用車を優遇する為にアプローチを確保する部分と歩行者がくつろげる部分を明快に区分する。どうあったらいいかを先に考えていただいて、そのうえで交通ネットワーク。この手順ですすめていただくと、新しい時代の駅周辺ができるかと思う。

松井委員（有識者）

- 大分の話は機会があったらまた今度。100mの幅の道路を日本にはそれまで4本あった。平和な時代につくっているのは大分だけ。シンボリックな道路が連立と合わせてつくるが、都市の顔というのは広大な街路という事で顔づくりを目指したがどこの都市でも非常にインパクトがある。
- 道路ネットワークの話をする、20世紀までは歩行者と自動車を分断したり空間を空けたりして分離していた。21世紀は物理的な分解ではなく、人が一番中心になるような形を考えるのが世界の主流となってきた。ゾーン30という言葉があるが車が時速30キロ以内でしか走れないとか、人が歩いている時は車が止まるなど。歩行者を第一に考えて、それにオーバーラップして受けの交通を考える。歩行者の安全性が確保される、そういう計画ができたらいいいのではと思う。
- あと、今まで商店街の道路をつくって活性化するという事でいろいろやってきたが、ほとんど拡幅して失敗してきた。狭い商店街をそぞろ歩きできるからいいのであって、そこを2車線にして歩道をつけて拡幅した途端、片側しか歩けなくなって衰退していく。つまり車が勝ってしまう。どうしても車を通さなきゃいけないのであれば、1本裏に通すとか。車と人との関係はいろいろ工夫をしてやる事が重要な視点だと思う。

事務局

- 国土交通省ではコンパクトなまちづくり推進を視野に人が中心の都市空間の構築を施策として掲げている。その中で街路空間の再構築の支援を許可しようとしている。今まで我々が交通計画を考えていく時は、やはり車を主体として考えてきた部分もあるが、今後は歩いて暮らせるまち、人の歩行の部分を考えていく。
- 自動車交通をどのようにするのか？というアイデアやヒントをいただいたので、今後は国による支援や制度を活用しながら、我々もいろいろな検討をしていきたいと考えている。

高野座長

- いつも釧路が考えていただきたいのは気候。年の半分以上が寒いので快適性を求めるのを、他の部分とプラスアルファで考えていただきたい。

○民間プレーヤーとの意見交換会開催概要

松井委員（有識者）

- これから長いプロジェクトを進めて行くに際して、こういうコアメンバーを募って更に拡充していくが、物を作るメンバーと、出来上がった時にどの様に活用して守り育てるか、そういった組織体がある。その行為をエリアマネジメントというが、プロジェクトが出来上がってから組織をつくると立ち上がりが遅いので、プロジェクトのスタートから組織を創設して、その段階で考えて行くことが必要である。

高野座長（有識者）

- あとは大手のデベロッパーとか大手の不動産的な発想をもっている人達と情報交換を色々な形でやられるとよい。推進力としてもそういった方々の力は非常に重要である。

○その他

松井委員（有識者）

- 来年、民間の方達と意見交換会をやっていくと思うが、清水義次先生とかに話をしてもらって、その話を聞いて折り合いが良さそう、そりが合いそうだったらリノベスクール等をやらしてもらえばいいので、話を一回聞くだけだったらそんなに問題は無いので、話を聞いてこんな感じだと聞くだけでも結構参考になると思う。
- 民間だけでやる、補助金を受けないでまちに火をつけていくという実績もあるため、参考になると思う。それから先ほど話があった様に、公共施設の複合化で、現状維持で建替えないで合併したりするということで事例がある。
- 小学校の土地がある。廃校になったので、そこへ警察署を持ってくる。そして警察署が空いた後に役所を置く。この様なプロジェクトが全国で、私は「式年遷宮型まちづくり」と流行らせようと思うのだが、これからあらゆる公共施設が老朽化して規模も合わなくなっている。それを総務省が3年前に維持管理計画、基本は個別の維持管理計画に終わっていると思う。岡本部長がお話された様に複合化や或いは場所を変えていく、こういったことでシビックコアをリニューアルしていくということは、釧路でも空間を上手く使えば出来るのではないかなと思う。
- 区画整理手法のため、様々なメリットがある。公的なものにも一定の助成金が入られるので、それも活用できる場面があるかなと思う。

以上

第3回釧路都心部まちづくり推進協議会（準備会）
出席者名簿

平成31年3月19日（水） 14:00～15:50

場所: 釧路市役所 防災庁舎5階 災害対策本部室

	団体名・所属部署名		役職	氏名	備考
委員	有識者	日本測地設計(株)	副社長	松井 直人	
		法政大学デザイン工学部 都市デザイン工学科	教授	高見 公雄	
		北海道大学大学院 公共政策学連携研究部	教授	高野 伸栄	
	釧路市	総合政策部	部長	岡本 満幸	
		産業振興部	部長	秋里 喜久治	(欠席)
		産業振興部	観光振興担当部長	吉田 英樹	
		都市整備部	部長	伴 篤	
オブザーバー	北海道開発局	事業振興部都市住宅課	都市事業管理官	天野 繁	
	北海道開発局 釧路開発建設部	道路計画課	道路計画課長	小林 孝士	(欠席)
	北海道建設部 まちづくり局	都市環境課街路グループ	主幹	松田 雅宏	
	北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部	事業室道路課	主査	佐々木 健司	
	北海道旅客鉄道(株)	総合企画本部地域計画部	主幹	羽山 さえ子	
事務局	釧路市	総合政策部	都心部まちづくり 担当部長	渡辺 亮	
		総合政策部都市計画課	課長	吉岡 亨	
		総合政策部都市計画課	課長補佐	横田 倫典	
		総合政策部都市計画課	専門員	山田 智史	
	公益社団法人 日本交通計画協会				